令和５年第３回黒部市議会６月定例会
提出諸案件に対する質疑並びに市政一般に対する質問（代表・個人）通告要旨
■提出諸案件に対する質疑並びに市政一般に対する質問（代表）

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
1	自民クラブ 古川和幸	１　総合振興計画について	
		(1)　市民にむけた「第2次黒部市総合振興計画　後期基本計画」について 総合振興計画・基本構想は、2018年（平成30年）よりスタートしており、作成に携わった堀内元市長や、策定時の大野前市長の想い、その他先人方々の想いや理想も取り込めた計画だと思っております。今回の後期基本計画には武隈市長のあらたな思い・願いも込められたと思います。改めて、市民へ今後の未来・願いを込めた振興計画について、市長の想いを伺う。	市　長
		(2)　「第2次黒部市総合振興計画　後期基本計画」の成果を「見える化」について 本市の総合振興計画に、「主な指標と目標」が設定され、毎年度評価されていますが、その進捗具合を市民に具体的な形（指標＝見える化）で示す形について伺う。	市　長
		２　協働のまちづくりの推進について	
		(1)　人口減少が地域コミュニティに与える影響について 人口の減少や高齢化が急激に進行する中で、コミュニティ活動や集落そのものの維持が困難となっている地域が出てきておりますが、地域住民の交流や地域の関わり方・接し方など、人口減少が地域コミュニティに与える影響について伺う。	総務管理部長
		(2)　コミュニティの維持・強化について まちづくりの基本方針「市民と行政がともに支えるまちづくり」の施策区分が見直され、前期基本計画における「市民活動支援への取組」から更に踏み込んで「コミュニティの維持・強化」が位置付けられました。又、くろべ市民交流センター「あおーよ」が10月6日よりオープンし、この交流拠点施設の利活用も踏まえ、コミュニティの維持・強化についての課題認識と施策の展開方針について伺う。	市　長
		(3)　地域協働課の設置・目的について 令和5年度の組織機構改革で新たに地域協働課が設置され、多くの市民・地域の皆様が興味と期待をもっている課だと思っております。改めて、地域協働課の目的と所掌事務について伺う。	市　長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
1	自民クラブ 古川和幸	３　公共施設のあり方について (1)　黒部市公共施設等総合管理計画の進捗具合について 本市では公共施設の老朽化や人口減少・少子高齢化に伴う公共施設の利用ニーズの変化に対応する為、「黒部市公共施設の再編に関する基本計画～公共施設等総合管理計画～」が策定され、5年ごとの計画の見直しのほか、国の指針に沿って個別施設計画の位置づけやユニバーサルデザイン、脱炭素への対応が追加されています。 令和3年度の総合管理計画の改訂により、建物系（ハコモノ）施設は148施設だったものが、現在は144施設とされております。その中身としては、短期・中期・長期施設と分けられており、そのうち、5年間で継続または再編（解体、譲渡、売却等）していく施設を短期計画施設とされております。現時点における短期計画の今後の取組方針や進捗具合について伺う。	総務管理部長
		(2)　今後の将来構想における公共施設（ハコモノ）計画について 新たに閉鎖となる施設を含む遊休地や跡地の利用や民間活用などは、今後どの様に進められるのかお聞きします。また、これらの物件を活用した公共施設構想が発想される可能性があるのか伺う。	市　長
		４　放課後児童クラブについて (1)　放課後児童クラブ（学童保育）の統一性（情報共有）について 現在の放課後児童クラブの運営体制、スタッフの処遇（賃金水準及び福利厚生）、保護者の利用負担額及び開所時間は統一されているのか。又これらは情報共有・開示されているのか。 そして、放課後児童クラブ連絡協議会が開催されていますが、その立場や役割と、現状どのように活動されているのか伺う。	市民福祉部長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
1	自民クラブ 古川和幸	**５　黒部市民病院について**	
		(1)　令和4年度の病院経営状況について 黒部市民病院は、黒部市民のみならず新川医療圏に暮らす私たちに、適切な医療を提供していただいており、医師や看護師をはじめとする医療従事者の皆さんの献身的な働きに敬意を表するものであります。新川地域の基幹病院としての期待に応えていく為、経営の安定が必須であります。又黒部市民病院は公営企業として、病院に必要な医療人材を確保し、計画的に設備投資を行い、その上で収支を確保していくことが必要です。 令和2年度、3年度は、地道な経営努力と新型コロナウイルス感染症関連の補助金等で収支は黒字ではありますが、令和4年度の決算（見込み）について、状況を伺う。	病院事務局長
		(2)　新院長としての抱負（想い）について 令和5年度　新川地域の基幹病院である黒部市民病院の院長に就任された抱負と所信をお聞かせください。又令和5年度に予定している特徴的な事業などがあれば、伺う。	病院長
		(3)　コロナ5類への取り組み体制について 5月8日に新型コロナウィルスの感染症法上の位置づけが2類相当から5類に引き下げられました。市民にむけてどのような対応・呼びかけが必要か、医療職である院長のお考えを伺う。 又、5類に移行するにあたって、医療機関である市民病院の取り組みが変わった点について伺う。	病院長
		６　ふるさと黒部サポート寄附について	
		(1)　令和5年度のふるさと黒部サポート寄附について 令和4年度における「ふるさと黒部サポート寄附」いわゆる「黒部市へのふるさと納税」は、寄付件数は、6,534件　寄付総額約1億6,000万円としてそれぞれ前年度の4倍近くに増えたとありました。 そこで令和4年度の成果・実績について伺う。又ふるさと納税を通じて令和5年度も令和4年度以上に全国へ黒部市をPRしていく構想・取組等があれば伺う。	市　長

質問順	会　派　名 質　問　議　員	質　問　事　項	答　弁　者
1	自民クラブ 古　川　和　幸	７　KOKOくろべについて (1)　野菜等の配送社会実験について JAくろべと連携し野菜等の配送社会実験をR4.10月～R5.2月に行ったが、社会実験の時期を再検討する事も必要ありと考える。この野菜等の配送社会実験に関しては、中山間地が多い本市においては、まだまだ可能性があると考えております。 もし、各農家等を回り、野菜等の収集・配送等を行う民間団体・業者が出てきたら、本市として農業の担い手を確保する意味においても支援されるのか伺う。	産業振興部長
		(2)　KOKOくろべの今後の取組について 本市を訪れる観光客は、コロナ禍から回復傾向にあり、コロナ前の状況に戻りつつあり、増えてきていると実感しているが、今後道の駅「KOKOくろべ」においてどのように観光案内に取組んでいくのか伺う。	産業振興部長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
2	自民志創会 成川正幸	**1　アフターコロナの中心市街地活性化策について**	
		(1)　中心市街地は、「買物の場」から「多世代が共に暮らし、働く場」への変化が必要と言われている。本市の中心市街地活性化支援の状況と今後の考え方について伺う。	都市創造部長
		(2)　現在、中心市街地である市民交流センター前の大町通りは、大型車両乗り入れが規制されている。規制が行われてから年月が経過し、公共交通をより便利に、そして中心市街地に人を呼び込むための検証と整備が必要と思うが、現在の考えと今後について伺う。	都市創造部長
		2　移住定住施策について	
		(1)　「移住・人つなぎ支援センター」の役割を伺う。	総務管理部長
		(2)　情報発信の内容と方法について今までと同じなのか、あるいはアップデートして、この機会に強化していくのか伺う。	総務管理部長
		(3)　お試し幼稚園入園、お祭り参加権、空家と耕作放棄地を利活用した「農地付き別荘」のクラインガルテン、さらには移住後の特典として幼稚園、保育園、放課後児童クラブの途中入所などが考えられるが、それらについて検討出来ないのか。また現在検討されている事があれば併せて伺う。	総務管理部長
		3　関係人口創出の取り組みについて	
		(1)　市内イベントに参加される方々に対して、どのようにアプローチをしているのか。加えて、継続して本市に関わってもらえるような取り組みがあれば伺う。	総務管理部長
		(2)　若者の定住、そして関係人口を増やす取り組みで将来の移住者になっていただくために、友達と一緒に帰省する超帰省という言葉が流行りだしている。 こういった取り組みは、以前から、acoico 富山県出身首都圏 若者ネットワークなども行っているところだが、本市として超帰省に支援は出来ないものか伺う。	総務管理部長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
2	自民志創会 成川正幸	**４　観光振興の取り組みについて**	
		(1)　黒部宇奈月キャニオンルートに行きたくても行けない方に対して、どのようなアプローチをして、満足度を上げていくのか。準備期間でもある本年、来年以降に向けた取り組みを伺う。	産業振興部長
		(2)　訪日外国人旅行者が急激に増加しています。その訪日外国人を呼び込むためには、情報発信が重要になっている。どのように訴求しているのか。 　また、訪日外国人だけではなく日本国内からも黒部を検索している人が他に何を観ているのか。旅行前検索に繋げる為の考えと工夫をしている事例などがあれば伺う。	産業振興部長
		(3)　旅行中の人流調査は、現在は施設からの報告人数をまとめている方法を取られていると思うが、もっとリアルタイムで精度の良いもの、統一的なデータが取れるようになれば、今以上に対策を打てるようになると考えるが、デジタル活用での人流調査について本市の考えを伺う。	産業振興部長
		(4)　黒部市内の観光人材、宿泊施設の客室稼働率、駐車場の現在の状況と今後の対策はどのように考えているのか伺う。	産業振興部長
		５　休館した公共施設の備品の取り扱いについて	
		(1)　これから、学校も含めて施設の再編などが予想されるが、休館した公共施設の備品の取り扱いについて、市の考えを伺う。	総務管理部長
		６　市営新幹線駅駐車場の利用状況、並びに今後の在り方について	
		(1)　本年度GW期間を含めた利用状況と、併せて、市営新幹線駅駐車場の今後の在り方について本市の考えを伺う。	都市創造部長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
2	自民志創会 成川正幸	**７　市内の労働力不足の現状と今後の対策について**	
		(1)　本市において現在の有効求人倍率、失業率を全国平均と併せて伺うと共にその状況をどう認識されているのか伺う。	産業振興部長
		(2)　本市として、市内企業の人材確保・定着に向けた支援は、どのようなものがあるのか伺う。	産業振興部長
		(3)　全国には、ハローワークや県、商工会議所などと連携し、企業へ就活支援をしている自治体がある。市長は、経済連絡会議を立ち上げられ、情報交換の場を設けられたりしているが、連絡会議で就活支援の取り組みなどを話し合われたことは無いのか、会議の内容などで関連した話がなかったのか伺う。	産業振興部長
		(4)　繁忙期の異なる産地や職種が連携し人材を確保する「産地間、職種間人材リレー」の取組みで人材不足が少しでも解消出来ないかと考える。「産地間、職種間人材リレー」についての見解を伺う。	産業振興部長
		(5)　本市には、他自治体には無い自慢できるところがいくつもある。「毎週末にキャンプや登山をしたい」「休日には電車の写真を撮ったり、乗車したり、電車がある生活をしてみたい」「釣り三昧な生活をしたい」などの大好きな事を満喫できる生活をしたいなど、本市の特徴を生かした趣味をきっかけにした移住定住アプローチについて伺う。	産業振興部長
		８　黒部市の漁業振興策について	
		(1)　(一社)フィッシャーマン・ジャパンとの連携や、市と漁協・漁業関係者との新たな水産業実践体制の構築を探ること等、本市の漁業振興に対して如何なる戦略を描いているのか伺う。	市　長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
3	自民同志会 中野得雄	**1　教育長の考えについて**	
		(1)　新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5月８日から2類相当から5類に変更されたが、この変更により、学校教育についてコロナ禍と比較し、どの様な変化と施策が計画されていくのか伺う。	教育長
		(2)　PTA、地域との繋がりについて教育長の考えを伺う。	教育長
		(3)　教員の働き方改革について教育長の考え・思いについて伺う。	教育長
		2　道の駅KOKOくろべについて	
		(1)　オープン当初、年間来場者数については99万人を目標に運営を行ってきたが、実際は908,501人と達成が叶わなかった。原因・要因をどの様に分析し、今年度は昨年の反省を踏まえどの様な数値目標を設定しているのか伺う。	都市創造部長
		(2)　昨年度、品揃えや品種等についての意見を多く聞き、更にJAアグリ東の閉鎖などがありました。対策として配送実験を行ったがその結果報告と対策を伺う。また、指定管理者が行っている基幹店舗である「瑞彩マルシェ」の今後の新たな取組が有れば伺う。	産業振興部長
		(3)　誘致ゾーンに今年7月14日オープン予定の「湯屋FUROBAKKA」そして北側誘致ゾーンにコンテナ型宿泊施設が出店計画されているが、道の駅「KOKOくろべ」との相乗効果を狙っての事業計画について伺う。	都市創造部長
		(4)　道の駅は21時まで年中無休で開館していますが、出店店舗についてはほとんどの店舗が18時・19時までの営業となっている。夏場においては日没時間が19時を超えており、周辺にこの様な商業施設がオープンした時に、周辺エリアからの集客を考えた場合、出店店舗と協議し夏時間の設定を行っては如何か伺う。	都市創造部長
		(5)　道の駅「KOKOくろべ」～中山間地区のひまわり～くろべ牧場まきばの風までの新たな黒部市の観光スポット発信により、人を呼び込む施策としてのシャトルバス運行計画についての考えと、協議が進んでいるのであれば当局の考えを伺う。	産業振興部長

質問順	会派名 質問議員	質問事項	答弁者
3	自民同志会 中野得雄	３　北アルプス横断道路構想について (1)　今年度も7月28日に北アルプス横断道路構想推進会議が開催されます。過去から30年以上協議しているこの事業が実施されれば長野県や関東圏とのアクセスが飛躍的に向上する事はもとより、近年多発する自然災害時には複数のネットワークの確保にもつながる。この事業については、上田英俊代議士も衆議院予算委員会でも積極的に質問・提案されておりますが、武隈市長のこの推進プロジェクトへの考えを伺う。	市　長
		４　姉妹都市メーコン・ビブ郡訪問について (1)　姉妹都市アメリカ合衆国メーコン・ビブ郡を8年ぶりに訪問されたが、レスター・ミラー市長との会談の成果について伺う。	市　長
		(2)　新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行したことを踏まえ、今後姉妹都市との教育・文化・医療・経済の交流をどの様に再開し、どの様な事業を行っていくのかを伺う。	市　長
		(3)　姉妹都市との医療分野交歓協定に基づき医師の派遣については、ナビセントヘルス及びマーサー大学へ88名の研修医、医師・事務局は延59名、看護師15名、技師5名を派遣し、医師52名、看護師20名を受け入れている実績があり、医療技術の向上、医師・看護師不足問題の対応が効果を上げているが、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行したことを鑑み、今後の医療関係者の派遣・受け入れ事業計画をどの様に考えているのか伺う。	病院長
		５　石川県との観光連携について (1)　今年2月23日に金沢市アートホールにて、「開湯100周年・北陸新幹線延伸シンポジウム」が開催されました。その後、村山金沢市長が「新幹線敦賀開業は大きなチャンスであり、これを機に黒部市と共に広域観光を推進したい」とのメッセージを発しておられます。また、武隈市長は「近県を巻き込んだ広域観光」「人を迎える側の魅力、魅力的な人材発掘」との意見を述べられているが、これらについての思いと今後の取組について伺う。	市　長

■提出諸案件に対する質疑並びに市政一般に対する質問（個人）

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
1	高野早苗 (一問一答方式)	1　保育所に関連して	
		(1)　保育士1人につき保育可能な子どもの人数を示したものとして保育士配置基準がある。国が定めている保育士配置基準もあるが、本市の保育士配置基準の現状について伺う。	市民福祉部長
		(2)　国の保育士配置基準は昭和23年に制定されてから改正が行われておらず、現在見直しも検討されているようだが、市としてこの保育士配置基準をどのように捉えているのか。また、現場の声をどのように聞いているのか伺う。	市民福祉部長
		(3)　保育士は子ども達のお世話のみならず、一人ひとりの発達記録簿や保護者との連絡帳の記入など業務は多岐にわたり、また保育士が給食時の準備や片付け、室内の清掃やおもちゃの消毒などをやっている現場をたびたび見てきた。もう少しこれらの負担を少なくできないか、こうしたことが保育士の待遇改善に必要ではないかと思われる。現状をどのように認識しているのか伺う。	市民福祉部長
		(4)　保育士の資格がなければ直接子どもと関わる業務にはつけない。しかし、「子育て支援員研修制度」がある。これは、都道府県が定めた基本研修及び専門研修を修了し、保育事業に従事する上で必要な知識や技術を習得した人を「子育て支援員」として認定する制度である。この制度をもっと活用出来たら保育業務負担の軽減につながるのではと考える。この制度の本市の取得状況、並びに取得しやすいように啓発や助成する考えについて伺う。	市民福祉部長
		(5)　これまでコロナ禍によりいろいろな規制があり、大切な幼児教育の要である人との交わりが希薄であったように思う。保育所、幼稚園、こども園の今後の取り組みをどのように変えていくのか伺う。	市民福祉部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		２　黒部市民病院に関連して	
1	高野早苗 (一問一答方式)	(1)　「癌」と診断されることは生命を脅かす病と直面することで本人、家族にとって痛みや心身的ケアなど専門的に寄り添う緩和ケアが重要だと思う。そうした中、黒部市民病院では、令和4年5月から常勤の先生を招聘し、チームによる緩和医療ケアが始まっている。設置となった経過、現状、今後の課題を伺う。	病院長
		(2)　現在、本人の承諾があれば開業医、あさひ総合病院などから市民病院のカルテをオンラインで見ることの出来る「扇状地ネット」が運用されていると聞いている。市民病院から退院され、開業医が経過等を見るときとても有効との事である。 私が所属する生活環境委員会において大分県臼杵市の「うすき石仏ネット」を視察した。「うすき石仏ネット」は臼杵市内の医者、歯医者、薬剤師、看護師、介護士、ケアマネージャ、消防士などが協力して市民の健康を支える仕組みである。高齢化が進み医療・介護体制が益々求められる中、それを支える人材が不足しつつある地域が抱える問題に取り組んだとの事。個人情報の保護や各々の医療機関のシステム費等、課題もあると思うが、現在活用されている「扇状地ネット」は今後どのように活用展開されるのか。「うすき石仏ねっと」のような広がりは期待できるのか伺う。	病院長
		(3)　市民病院では男女を問わず通院患者が買い物カートに自分の荷物を乗せ院内の移動に利用されている。買い物カートを使用したいが不足しているとの声を聞くが、現状をどう捉えているのか伺う。	病院事務局長
		(4)　糸魚川総合病院では出産ができなくなり、分娩は当院と連携しているとお聞きしている。産婦人科は24時間の医療チーム体制が必要で人員確保も大変だと思う。　県東部の基幹病院として産婦人科の現状、将来展望について伺う。	病院長
		(5)　5月８日新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行された。これによって法律に基づく行動制限はなくなった。まだまだ緊張感を持っての対応は必要だと思うが、発熱外来はこのまま継続するのか、また、入院患者の面会制限はどうなるのか伺う。	病院長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
1	高野早苗 (一問一答方式)	２　黒部市民病院に関連して (6)　この4月に辻院長が新しく黒部市民病院の院長に就任された。コロナ禍が新しい局面を迎える中で、黒部市民病院の新川地区における基幹病院としての役割や、今後の課題、展望について伺う。	病院長
		３　中学校の通学対策について (1)　中学校が4校から2校（清明中学校・明峰中学校）に統合され4年目に入った。通学体制については何回も地区や保護者との意見交換が行われ現在に至っていると認識している。一方これまでの年月の経過の中に公共交通網の変化や、使用しない時間帯のスクールバス利用等の論議も出てきた。 スクールバスにおいて、利用の対象となるエリアの見直しは可能なのか伺う。	教育部長
		(2)　朝夕に配慮した通学に利用できる公共交通網を作れないか伺う。	都市創造部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
2	松倉孝暁 (一括方式)	**1　本市におけるＧＸの取り組みについて**	
		(1)　本市におけるGXの取り組みについて 本市の取り組むGXについて現状と今後の取り組みに対する所見を伺います。	市長
		(2)　ペロブスカイト太陽電池について ペロブスカイト太陽電池とは、光を電気に変換する結晶構造を持つ、ペロブスカイトという素材から作られる太陽光発電です。その特性は軽くて薄く建物の外壁にも貼れること、また製造コストも既存の太陽光発電の半分でありここ最近注目を集めている。2025年度に実用化が見込まれる技術であり、本市においても注目しておくべき事柄であると考えます。ベロブスカイト太陽電池に関する所見を伺います。	市長
		(3)　取り組み自治体について 東京都が大田区の森ケ崎水再生センターにてペロブスカイト太陽電池に関する実証実験を行っている。当市においては令和5年度予算において先進地事例視察研修費を計上している。まさしく先進地事例として研修すべき内容と思いますが所見を伺います。	市長
		2　観光振興による交流人口の増加について	
		(1)　黒部宇奈月キャニオンルートの一般開放を明年に迎え、それぞれの出口入口である立山町・長野県大町市との2市1町の観光に関する効果的な連携をどのように考えているか所見を伺います。	市長
		(2)　関西圏との交流促進について 明年北陸新幹線が敦賀まで延伸され関西圏との交流人口を増やすチャンス到来である。そこで関西圏の利便性の向上について注目をしたい。朝一の黒部宇奈月温泉駅に乗車した場合の現状では 黒部宇奈月温泉駅6:53→東京駅9:20 黒部宇奈月温泉駅7:03→大阪駅10:39 敦賀延伸による時間短縮効果30分＋敦賀駅での接続時間を15分と仮定すると大阪駅への到着時間が9時台になり、心理的にぐっと近くなります。特に朝何時に目的地へ到着できるのかは、アナウンス効果も含め大事なポイントであります。東京行と同じく6時台の新幹線があるとより早く関西圏入りが可能であります。前回議会では『はくたか』増便の要望等の考えを伺いましたが、関西圏との交流促進に関連する要望活動を国・県に求めてはどうでしょうか所見を伺います。	都市創造部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
2	松倉孝暁 (一括方式)	**２　観光振興による交流人口の増加について** (3)　あいの風とやま鉄道黒部駅の利便性の向上について 高齢化に伴って連絡橋の階段の上り下りができない方の割合が増加すると考えます。市内在住のある足の不自由な方はあいの風とやま鉄道黒部駅の連絡橋にはエレベーターがないので、富山駅との往復はやむを得ず魚津駅を利用しているとの事例もございます。黒部駅内の連絡橋にエレベーターを設置検討できないでしょうか。	都市創造部長
		３　フレイル予防について (1)　フレイル予防について コロナも5類となり落ち着きつつある中にあって、身体的にも精神的にも維持向上させていくためにフレイル予防の充実を考えますが、現状どのような課題がありますか。課題を踏まえてフレイル予防の事業やサポーターの養成について、フレイル予防事業の拡充等今後、どのように推進されるのか所見を伺います。	市民福祉部長
		(2)　高齢者支援について 自宅でも体操などに気軽に参加できる取組も大切であると考えます。自分のペースで、自宅でも気軽に取り組める、楽しく参加できる、といった要素を兼ね備えて高齢者の誰もがフレイルを予防できるよう、支援していただきたいと考えますがいかがでしょうか。 一方で、介護を必要とする高齢者も多く、在宅介護を行う介護者は日々の介護で身体的な疲れだけでなく、精神的にも疲労がたまってきます。介護を支える家族への支援は、もっと充実させるべきと考えます。介護者へのレスパイト事業などの充実は必要かと思いますが、所見を伺います。	市民福祉部長
		(3)　eスポーツについて 『eスポーツ』はスマートフォンなどのデジタル機器に不慣れな高齢者等への配慮が必要な中、年齢や障害の有無に関係なく、全ての人が輝けるバリアフリースポーツとして、また、認知機能の維持や孤立解消ツールとしても注目されています。デジタルを身近に感じ、コロナ禍で生じた健康不安や周囲との交流減少といった、特にシニアには対応が難しい課題を『eスポーツ』で解決しようとの取組です。 神戸市は企業と連携して介護施設での実証実験を開始し、健康効果の検証や交流促進にむけた取組を進めています。また富山県においてもeスポーツの普及に取組む各種団体が増加傾向にあり、高齢者支援としての『eスポーツ』についての所見を伺います。	市民福祉部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
2	松倉孝暁 (一括方式)	３　フレイル予防について	
		(4)　体のフレイル予防について 体のフレイル予防につながるスポーツの振興を進めていくことが大切であると考えます。パークゴルフ・スティックリング・モルック等簡単な運動を伴うスポーツが有効であり関係人口の増加を図っていきたいと考えます。例えば黒部川公園パークゴルフ場の空き地に新規コースの増設やおおしまパークゴルフ場の拡充等が必要ではないかと考えますが所見を伺います。	都市創造部長
		(5)　認知症対策の強化について 認知症対策の強化には、認知症検診を特定健康診査に付帯する形で行うことが必要である。専門医療機関と連携し、検診事業も含めた『とっとり方式認知症予防プログラム』を導入していくお考えはありますでしょうか。	市民福祉部長
		(6)　もの忘れ外来について もの忘れ外来を設置し数年経過しましたが、現状の効果と課題について所見を伺います。	病院長
		４　中心市街地の活性化にむけての課題	
		(1)　三日市公民館・働く婦人の家・市民会館の跡地利用について 旧施設の跡地利用に関する具体的な計画はあるのでしょうか、また解体予定等決定事項があればお伺いしたい。	市　　長
		(2)　市内バス路線について 黒部市くろべ市民交流センターの最寄りのバス停は現状では大町交差点付近とのことであるが、市民の皆様の利便性を考え、やはり目の前にバス停が必要との考えです。以前の要望の折にはバスの小型化も必要とのことでしたがあわせて所見を伺います。	市　　長
		(3)　空き店舗の取組について 黒部商工会議所では創業希望者に対する支援として『明日を拓く　くろべ創業塾』を開催されています。起業を目指し若い事業者が積極的に参加されている様子を伺いました。参加者のなかには空き店舗をリフォームし、起業された方もおられ創業における支援は大切な取組であり、当局も支援されているところではありますが現状の創業時における各種支援制度とその拡充についての所見を伺います。	産業振興部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　学校教育上のタブレット活用について	
3	長谷川　恵　二 (一問一答方式)	(1)　今の学校現場でのタブレット活用状況についてお聞きしたい。令和4年度に事前に計画されたタブレット活用の授業時間数について、どの程度進捗しているのか。	教育長
		(2)　令和3年度においては、複数教室でのタブレット同時使用や動画一斉視聴に支障が発生しているので、令和4年度予算で、光回線の増設等による通信環境の改善を計画したようであるが、その提案を行った事業者は、支障の原因や対策および効果について、担当課にどう説明していたのか。	教育長
		(3)　令和4年度予算において、当市における大規模校4校について光回線増設の予算が執行されているが、その後、ネットワーク接続障害はどう改善されたのか。また増設していない学校については問題なく改善されているのか。	教育長
		(4)　次に、タブレット授業を担っている教員の問題について取上げたい。文部科学省の調査によれば、中学教諭の残業時間で過労死ラインの60時間以上を超える教諭が37%ほどということだが、当市における状況はどう報告されたのか。	教育長
		(5)　ネットワーク接続障害について教室で対応しているのはどういう体制か。5月16日の中央小学校への授業参観時に教室内27台中私が確認しただけでも10台のタブレットが接続できない状況が起こったが、同席していた教頭はじめ担任も接続障害に対応した人は誰もおらず、接続できなかった生徒は、できた生徒の端末を傍観したが、その後その生徒について、授業の補完はどうされたのか。	教育長
		(6)　教職員はもともと残業時間が長く大きな改善がされていない中、上記対応に加え、タブレットそのものの操作の指導も担われているのか。GIGAスクール構想ははじまったばかりであり、今後もさらなる障害が予想され、その対応が必要である。専門家の常駐など、体制整備を国や県に求めていくべきではないか。	教育長
		(7)　令和3年度のネットワーク接続障害について、学校内のネットワーク機器の接続方法に問題があるとの指摘がICT 支援員からされたと聞いているが、その事実はあったのか。あったとすれば担当課でどう対応されたのか。	教育長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
3	長谷川　恵　二 (一問一答方式)	**1　学校教育上のタブレット活用について**	
		(8)　最後に市長にお聞きしたい。これまでの接続障害についてどういう報告を受けているのか、この問題は不良なネットワーク構成という欠陥商品を買わされたものだと思うが、回線改良事業の不具合も併せて、当市は被害者であると思うが、今後どう対応されていくつもりなのか。	市　長
		(9)　新型コロナ感染対策として、リモート授業などが必要となり併せて進められているのがこの全国的なGIGAスクール構想であり、当然国はその推進体制を現場に負担を掛けることなく進めるべきであると考えるが、市長のお気持ちは。	市　長
		2　公共交通、とりわけデマンドタクシーの改善について	
		(1)　当市に整備されている路線バス・コミュニティタクシーについては乗車率と収支率、予算額、デマンドタクシーについては収支率と予算額をそれぞれお聞かせください。またその現状についてどう考えられているのか併せてお聞かせください。	都市創造部長
		(2)　デマンドタクシーの目的地は三日市エリアと周辺施設に限定されているが、これでは限定された利用対象地域の人でさえ、思うような目的地に行くことができないうえ、一日3往復のみのダイヤが組まれており時間的制約も大きくなっている。何か改善のお考えはおありですか。	都市創造部長
		(3)　現行システムの改善となると、停留場の選定、ダイヤの組直しなど大がかりで複雑な作業が必要になってくる。これらにかかる費用も相当な額になってくると思われる。各地域から寄せられるバスダイヤの改善の声には相当困っておられるのではないか。	都市創造部長
		(4)　路線バスシステムを前提とした現行システムの改善ではもう限界に来ているのではないか。 　入善町で運行されている「ウチマエくん」や砺波市で始まった「チョイソコとなみ」の仕組みをご存じであれば紹介していただけないか。	都市創造部長
		(5)　これまで公共交通の充実のため、我が党先輩議員も含め長年の議論と関係者の努力で作り上げてこられた現行システムであるが、技術発展に伴いもう衣替えしていく必要があるのではないか。	市　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
3	長谷川　恵　二 (一問一答方式)	**３　高額療養費の周知徹底について**	
		(1)　医療機関にあらかじめ「限度額適用認定証」を提示することで、診療窓口での支払いを限度額までに抑えることもできる。黒部市民病院では、この制度の説明はもれなくできているのか。説明すべき担当者はだれということになっているのか。	病院事務局長
		(2)　黒部市民病院以外での医療機関での周知・説明についてはどうなっているのか、わかる範囲で教えていただきたい。	市民福祉部長
		(3)　高額療養費の支払い対象になるかどうかは、市で把握することはできるのか。	市民福祉部長
		４　重度心身障害者等医療費の助成について	
		(1)　黒部市には、この制度の利用対象者はどれくらいいらっしゃるのか。最新の資料でお答えください。	市民福祉部長
		(2)　この制度は利用対象者に周知されているのか 。その方法と確認方法はどうなっているのか。	市民福祉部長
		(3)　2022年9月県議会では重度障害者の医療費支払いについて議論され、県として償還払い方式から脱却することが決定されている。その具体的支払い方法について各市町村の判断に任せている。同年12月の日本共産党黒部市委員会の予算要望でも要請しているが、黒部市でも早急に、病院窓口での無料化、自動償還払いなど重度障害者に利用しやすい制度にするべきと考えるが、どうか。	市　　長

質問順	質　問　議　員 (質　問　方　式)	質　問　事　項	答　弁　者
3	長谷川　恵　二 (一問一答方式)	５　くろべ牧場まきばの風の経営改善について	
		(1)　家畜の育成のための使用料を値上げ改定するための条例改正案が3月の定例会に提出されず、今6月定例会に提案されたのはいかなる理由なのでしょう。	市　　長
		(2)　施行日が10月1日となっているのは、どういう理由か。	市　　長
		(3)　これによる今年度の増収見通しはいかほどか。	市　　長
		(4)　長年の赤字解消のための経営改善策はいつ頃までに提起される予定か、確認しておきたい。	市　　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　きめ細やかな公共交通施策の展開等について	
4	柳田　守 (一問一答方式)	(1)　まず、黒部市内路線バスの核となる「新幹線市街地線」について伺う。同路線バスは新幹線開業以来、黒部宇奈月温泉駅とあいの風とやま鉄道黒部駅間の連絡バスとして1日12往復する本市基幹バスの位置付けを持つと考えるが、利用実態は如何ですか。1日当たりあるいは1便当たりの利用状況を伺う。	都市創造部長
		(2)　主に通勤バスとされる「新幹線生地線」及び「南北循環線」の1日当たりあるいは1便当たりの利用状況を伺う。	都市創造部長
		(3)　新幹線開業前から長らく通勤バス又は生活路線バスとして市内を走ってきた富山地鉄バスの「生地循環線」、「池尻線」は、運行経路やバス車両の大きさは変わっても本市の住民の足としての重要な位置づけは何ら変わるものではないと考えるが、1日当たりあるいは1便当たりの利用状況を伺う。また、「池尻線」については今年度から運行に係る運用等も見直しされたと聞くが、その結果も合わせて伺う。	都市創造部長
		(4)　現在、コミュニティーバスとして位置付けされる「石田三日市線」は、石田地区の強い要望を受け、概ね石田地区全域と三日市地区を循環する南北2ルートの路線として、平成27年度から運行されたと記憶している。この路線についても1日当たりあるいは1便当たりの利用状況を伺う。また、昨年4月に開業したKOKOくろべ利用者のバス利用の利便性向上についても多くの市民の皆様の「声」も届いているとは思うが、この対策等についても合わせて伺う。	都市創造部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
4	柳田　守 (一問一答方式)	1　きめ細やかな公共交通施策の展開等について (5)　本市の「高齢者運転免許自主返納支援事業」の恩典としては、愛本コミュニティータクシーを含む市内バス7路線のフリーパスが希望者全員に交付され、有効期限は無期限で生涯利用可能とされる。合わせて市内タクシー業者のタクシー利用券等5事業の一つを選択することができ、上限1万5千円とされる。大変有利な制度と思われるが若栗地区の免許返納を視野に入れる同世代の方々からは必ずしも評判が良くない。市内バスのフリーパスは利用価値が低い。 具体的に言えば地鉄電車が通る若栗地区は市民病院にしてもスーパーの買い物にしても最寄りの若栗駅又は舌山駅の利用には最大2キロ近く要するところがある。徒歩のみの手段では返納に逡巡する姿が目に浮かぶ。電車が走っているからと画一的に線引きするのではなく、県道黒部宇奈月線や県道若栗生地線沿線、いわゆる黒部川沿いの住民の皆様に対するコミュニティーバスの導入検討や地鉄電車から程遠い村椿－大布施、荻生、田家野―中山、前沢－宮野エリアで導入されているデマンドタクシーの同地域での採用の可否等も含め、公共交通施策の再検討をされる考えはないか市長に伺います。	市　長
		2　本市職員の働き方改革と定年延長に伴う運用等について (1)　本市においても、政府の取組や民間企業の取組と同様に「働き方改革」への取組・実践が行われていると考えるが、具体的な施策等の動向を伺う。 (2)　本市職員数の動向について伺う。令和2年度からの当初予算・給与費明細書から確認すると一般会計における正規職員数は令和2年度・344人、令和5年度・340人とほぼ同数であるが、会計年度任用職員(臨時職員)のうち、正規職員と勤務時間がほぼ同じのフルタイム職員は令和2年度・86人、令和5年度・79人と微減である。パートタイム職員は令和2年度・313人、令和5年度345人と増加傾向にある。これらの要因等について伺う。また、正規・非正規職員の格差解消の視点からもこれまでに取られてきた施策等について合わせて伺う。	市　長 市　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		2　本市職員の働き方改革と定年延長に伴う運用等について	
4	柳田　守 (一問一答方式)	(3)　職員の時間外勤務動向について伺う。かねてから決算特別委員会等において「長時間労働の是正」の観点から、職員の時間外勤務の時間数、特定の部署による過重労働とも思われる時間外勤務を指摘してきた。災害対応や特定イベントへの対応等考慮されるべきものもあると理解するも適正な規模の人員配置に努めて頂きたいとの要請も行ってきた。そこで、令和元年度から令和4年度までの時間外勤務手当該当職員の人数や時間数の実績及びこれに対する評価等を伺う。	市　長
		(4)　本年4月から「黒部市職員の定年等に関する条例」が改正施行され、現行60歳の定年を2年に1歳ずつ段階的に引き上げ、令和13年4月に65歳とすることが決定した。一方、組織の新陳代謝を確保し、組織活力を維持するため、管理監督職勤務上限年齢制（役職定年制）も合わせて導入され、60歳時点の給料月額の7割に設定するとされ、また、60歳以降の職員の多様な働き方のニーズに対応するため、本人の希望で短時間勤務の職で再任用することも可能とした。そこで質問ですが、60歳以後の職員に画一的に役職定年制を導入し管理監督者から外すような運用は、本市のような小規模な自治体あるいは民間等を含む現下の雇用状況等から慎重になるべきと考えるが、市長の見解を伺う。	市　長
		(5)　平成14年に「地方公共団体の一般職の任期付き職員の採用に関する法律」いわゆる任期付職員法が施行され、条例で定めるところにより任期付職員の採用が可能となった。令和2年度の「任期付採用制度の運用状況に関する調査結果」によると条例制定済団体は、法3条第2項に基づく専門的知識経験を有する者の業務従事では、943市区町村で制定済、制定率54.8%とあった。本市においても多様な働き方の推進を含め、条例制定が必要ではと考えるが、市長の見解を伺う。	市　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		３　放課後児童クラブの今後の方向性について	
4	柳田　守 (一問一答方式)	(1)　まず、令和5年度の各クラブの登録人数等の状況を伺う。また、令和4年度は「中央チーキーズ」において21人の待機児童が発生したが、今年度の申し込みにおいては待機児童の問題はなかったのか合わせて伺う。	市民福祉部長
		(2)　支援員の確保について伺う。本年度の該当児童の登録数に比し、支援員の確保が厳しい状況のクラブもあると聞く。支援員は有資格者、補助員ともに一定の待遇改善が図られてきたと思うが、支援員の人数も含めその採用実態をいかに捉えているか伺う。	市民福祉部長
		(3)　現在、市内の放課後児童クラブ11施設のうち、利用料金として3,000円から4,200円の範囲で月額料金を保護者に負担いただいている。保険料やお楽しみ会等クラブ運営経費あるいは児童のおやつ代等に充てられていると思うが、国や各自治体による現下の子育て施策の充実等に伴い、この利用料金を軽減又は無料にできないかとの一部の運営委員会の声も聞く。市の見解を伺う。	市民福祉部長
		(4)　昨年12月定例会答弁の中で、各運営クラブによる支援員の確保や労務管理がクラブ運営の負担となっており、黒部市全体の非常に大きな課題と考える。また、支援員確保と併せ、引き続き地区にお願いするのか又は市直営あるいは民間委託等多様な運営方策も検討したいとされました。あれから約半年、協議の現状及びその方向性並びに進捗について伺う。	市　長
		(5)　長期休みにおける合同放課後児童クラブ活動について再度伺います。 昨年12月定例会において、夏期休業時の支援員不足が顕著である現状を鑑み、クリアする一つの方策として複数クラブによる合同開所を提案し、閉校中の旧宇奈月中や旧鷹施中の利活用、送り迎えはスクールバス利用等の提案をしました。市長の答弁では適正な児童数を上回る場合、支援員の目や声がいき届かなくなるリスク、エアコンの設置などの施設整備、バスの配車の工夫など課題は多々あるが、前向きに調査研究したいとあった。また、先に開催された若栗地区運営委員会や浦山地区運営委員会においても夏休みの支援員・指導員の確保が課題との問題提起もあったと聞く。今年もまもなく夏休みに入るが、合同開所についての検討経過等を伺う。	市　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
5	中野得雄 (一問一答方式)	**1　鳥獣対策について**	
		(1)　新川地区獣肉加工施設稼働状況について伺う。	産業振興部長
		(2)　新川地区獣肉加工施設の将来計画について伺う。	産業振興部長
		(3)　鳥獣の埋設処理をいつまで続けるのか伺う。	産業振興部長
		(4)　有害鳥獣焼却施設の設置について、新川地区で協議しては如何か伺う。	産業振興部長
		(5)　カラス対策についてのその後の経過と対応について伺う。	産業振興部長
		(6)　小学生通学路に出没するサルについての現状を把握し、どの様な対策を講じているのか伺う。	教育部長
		2　学校における情報管理等について	
		(1)　県内で発生している個人情報の漏洩や書類の紛失について、黒部市教育委員会では類似した事例が無いのか、また、発生防止についてどの様な対策をとっているのかを伺う。	教育部長
		(2)　タブレットを利用した授業は、コロナ禍の利用についての効果も浸透しているが、一方で課題や問題点の報告を受けている。今後の課題と対策について伺う。	教育部長

質問順	質　問　議　員 (質　問　方　式)	質　問　事　項	答　弁　者
5	中　野　得　雄 (一問一答方式)	３　放課後児童クラブ支援員について (1)　放課後児童クラブ支援員の賃金及び福利厚生について、本市の現状と今後の待遇改善の考えを伺う。	市民福祉部長
		(2)　市内支援員での広域的なネットワークを作り、市内の放課後児童クラブに於いての人手不足対策などに対応できる組織化を図っては如何か伺う。	市民福祉部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　消防を含む防災体制について	
6	大辻菊美 (一問一答方式)	(1)　火災、捜索救助等の災害時における消防団への情報伝達体制について伺う。	防災危機管理統括監
		(2)　地域防災の中核である消防団員の活動をICTでサポートするアプリがある。ICTを活用することでどこにいても、瞬時に最適な行動ができる。消防団の即時対応力が強化されることで地域防災力アップにもつながり、行政と連携して防災・減災の課題をICTで仕組み化することで効率アップにもつながる。行政と消防団間の報・連・相ができることで、最新の消火栓情報が共有でき災害時に役に立つ。スマートフォン等を活用したICTによる地域防災アプリの導入について伺う。	市　長
		(3)　消防庁の消防防災分野におけるドローン活用手引きには、「ドローンは、『空の産業革命』とも言われる新たな可能性を有する技術として、人手不足や少子高齢化といった社会課題の解決や新たな付加価値の創造を実現するツールとして期待されているところであり、官民問わず幅広く活用されている。」と記されている。災害対応におけるドローンの活用については、近年頻発化している大規模災害や火災、捜索救助等の災害時に有効性が確認されている。富山県内における各消防本部のドローン整備状況について伺う。	防災危機管理統括監
		(4)　消防防災におけるドローンの活用用途は、火災対応では、建物火災や林野火災発生時に火災の拡大状況、部隊の活動状況の確認等に用いる。救助捜索活動では、山間部や沿岸部における遭難事故発生時に要救助者の捜索、夕暮れや夜間であっても河川や山間部など、広範囲を迅速に捜索できる。情報収集では、被害状況について早期に情報収集するとともに、活動エリア周辺の状況把握、監視することで部隊の安全管理にも活用でき、消防団員が容易に立ち入ることができないエリアに対する情報収集を実施することもできる。消防団での消火や捜索救助活動におけるドローンの導入計画について伺う。	市　長
		(5)　黒部市消防団条例が令和4年4月1日から改正され消防団員の出動に係る費用弁償（年額報酬及び出動報酬）が引き上げられた。条例の中では、災害出動報酬は明記されているが、災害で待機指示があった場合の報酬が明記されていない。明記されていないということは無報酬なのか伺う。	防災危機管理統括監

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
6	大辻菊美 (一問一答方式)	1　消防を含む防災体制について	
		(6)　自主防災組織は、地域の住民同士が話し合い、いざというときに避難の呼びかけ・誘導、救出・救助、初期消火等、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織である。自主防災組織の都道府県別結成状況(令和4年度)をみると富山県は、自主防災組織活動カバー率が88.4%となっている。本市での自主防災組織数及び活動カバー率について伺う。	防災危機管理統括監
		(7)　令和5年3月定例会の野村議員の質問で防災対策における予防と初動対応の概要についての答弁の中に、各地区の自主防災組織による実践的な訓練を実施し、本市と地域が一丸となった防災対策を実施していると答弁されている。しかしながら、本当に実践的な訓練をしている自主防災組織が何組織あるのか。各地区における自主防災組織の具体的な訓練状況について伺う。	防災危機管理統括監
		2　安全・安心に暮らすための整備について	
		(1)　地区公民館は公共施設である。多くの人が利用され様々な活動を行っている。防犯カメラを設置することで犯罪の抑止力にもつながる。既に、公民館敷地内に防犯カメラを設置している地区がある。補助金で設置した地区、独自で設置した地区もある。安全・安心に利用できるように本市において全ての公民館に設置すべきではないかと思う。防犯カメラの設置について伺う。	市長
		(2)　子ども、高齢者の用水路での転落事故が全国で相次いでいる。本市も例外ではない。子どもは、「地域の宝」である。安全に道路を歩けるように危険な場所は、早急に整備を行うべきである。市内にも危険個所が多くある。例えば、荻生小学校から放課後児童クラブの場所へ行くまでの道路に用水が流れている。巾、約1m20cm、深さが約87cm、雨が降ると滑って落ちそうになる。特に水量が多く流れている時期は、落ちると大人も流されてしまう。また、水量が少ない時は落ちると怪我をしてしまう。とても危険である。安全・安心に暮らすために市内全域での転落防止柵等の早急な整備が必要である。危険個所の整備について伺う。	都市創造部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　不登校・ひきこもりについて	
7	野村康幸 (一括方式)	(1)　本市において、文部科学省が定義する不登校の児童生徒の実数把握をしているか伺う。	教育部長
		(2)　併せて、実数把握の調査方法についても伺う。	教育部長
		(3)　また、様々あると推察しますが、不登校の原因についても伺う。	教育部長
		(4)　様々な理由から学校に足が向かず、自宅で過ごしている児童生徒がいることもあると思うが、そのような児童生徒に対して、どのようなアウトリーチを行っているのか伺う。	教育長
		(5)　市内にある教育支援センター「ほっとスペースあゆみ」について、教育相談員及び指導員を配置し運営を行っているが、利用者に対して適正に対応出来ているのかを伺う。	教育長
		(6)　また、支援センターではどのような学習を行っているのかを伺う。	教育長
		(7)　さらに、中学校卒業後はどのような進路であるのかを伺う。	教育長
		(8)　全国でアウトリーチ研修受入先が10団体しかない中で、富山県には2つの受け入れ団体があり、そのうちのひとつが本市にある。このような環境を生かし、民間活力を積極的に取り入れ、行政と民間がワンチームとなって、よりきめ細かなアウトリーチを含めた支援体制の構築を行うべきと考えるが所見を伺う。	教育長
		(9)　併せて、今後の不登校児童生徒に対する本市の対応について所見を伺う。	教育長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　不登校・ひきこもりについて	
7	野村康幸 (一括方式)	(10)　厚生労働省は、本年及び来年にかけて「ひきこもりマニュアル」を制定する。富山県では2019年度に初めてひきこもり実態調査が行われ、推計値だが、15歳から64歳で9，000人いるとの結果が出ている。2019年10月1日現在、県のいわゆる労働生産人口が約581，388人であったことから、約1.55%、約65人に1人がひきこもりであるということになる。県の推計値を本市に当てはめると、令和5年5月末時点で黒部市の労働生産人口が22，526人であるから、約350人がひきこもりに該当するという計算になる。この実態を把握するためにも黒部市独自の「実態数調査」を実施するべきだと考えますが、見解を伺う。	市民福祉部長
		(11)　また、厚生労働省のひきこもりマニュアルが制定されたのちに、黒部版のマニュアルを作成してはいかがかと考えるが、併せて見解を伺う。	市民福祉部長
		(12)　本市には、ひきこもりに関する相談が昨年1年間で親族・本人問わず何件あったのか伺う。	市民福祉部長
		(13)　また併せて、相談を受けた際、本市で対応を受付けるのか、それとも他の関係機関を紹介するのか、またはその他の方法なのかなど、本市の対応について伺う。	市民福祉部長
		(14)　現在富山県において、行政及び民間団体で組織する「子ども・若者支援地域協議会」が設置されている。「ワンチームとやま」を掲げる新田県政において、各市町村の課題は県全体の課題として取り上げ、解決に向けて取り組んでいくと言われている。本市独自の「子ども・若者・ひきこもり未然防止協議会」を設置し、行政と民間団体にて意見交換を行い、ガイドマップ等を作成するべきと考えるが、所見を伺う。	市　長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
7	野村康幸 (一括方式)	**1　不登校・ひきこもりについて**	
		(15)　ある機構の統計調査によると、「地元では変われないけど、県外であれば自立できる」という事例が圧倒的に多いという結果が出ている。また、相談においても、あまりにも地元すぎると抵抗があるといった意見も多数出ているそうである。先日、共同生活型自立支援機構がひきこもりマニュアルを制定する厚生労働省の大臣政務官に対し提出した要望書にも「越境(県またぎ)を含めた可能性の検討を」と記されている。これは現在の法整備で支障になっているということではなく、各都道府県で発生した生活困窮者は他の都道府県で受け入れるという発想がなく、手続きが困難であるというところから来ているとのことである。 現在、黒部市においては、アウトリーチ研修や学習支援、ひきこもり支援やフリースペース、子ども食堂や子ども一時預かり、適応指導教室や社会福祉協議会など、子供や生活困窮者、ひきこもり等を支援する施設がたくさんあり、そのような団体や施設と本市とが一体となって協議会を設置し、情報共有を行い、黒部市で伴走型の支援の構築を目指しては如何かと考えるが、所見を伺う。	市長
		(16)　黒部市には、支援施設が充実していると共に、人々の温かさはもとより、温泉地であることや、自然豊かで心が癒されること、市内を横断する電車があること等、就労支援環境が整っていると考える。一方で、現在、特定公共賃貸住宅及び公営住宅共に空室が多く見受けられる。移住者人口の増加に繋げると共に、労働生産人口の増加に繋げるためにも、市営住宅の規制を緩和すると共に、県外からのひきこもりを含めた生活困窮者を積極的に受け入れ、生活支援やインターンシップのような就労支援を民間と連携しながら行い、全国に先駆ける仕組みを構築してはどうかと考えるが、所見を伺う。	市長
		2　緊急避難場所について	
		(1)　先日、市長が「緊急避難場所が施錠されていたらどうするか」という課題に対して生地鼻灯台の状況確認後「解決のヒントを得た」と言っておられるが、その詳細について伺う。	市長
		(2)　併せて、今後の方向性について伺う。	市長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		２　緊急避難場所について	
7	野村康幸 (一括方式)	(3)　市内16地区それぞれに、複数箇所の指定避難場所が設置されているが、内山、音沢、愛本地区だけが1箇所である。また、内山地区については、土砂災害時「使用不可」となっており、音沢地区については洪水時「使用不可」となっている。内山地区で土砂災害が発生した場合及び音沢地区で洪水が発生した場合の避難について伺う。	防災危機管理統括監
		(4)　愛本地区について、4項目全てにおいて使用可能であるが、栗虫集落の方々が愛本公民館に集まるにはかなり困難であると想定される。そこで、栗虫集落で土砂災害が発生した場合の対応について伺う。	防災危機管理統括監
		(5)　さらに、公共施設のみを指定避難場所にするのではなく、民間施設も対象とするよう働きかけをしていけば如何かと考えるが、見解を伺う。	防災危機管理統括監
		(6)　内閣府の津波高調査では福島県、岩手県、宮城県共に5m以上を観測した記録が残されている。また、専門家チームの調査では低いところで2m、高いところだと21mとの記録を残されている。本市の津波避難場所及び避難ビルを見ると、民間施設を含めて23箇所全てが海抜5m以下の場所である。現在指定されている津波避難所及びビルの選定方法について伺う。	防災危機管理統括監
		(7)　併せて、どれくらいの津波高を想定した選定なのかを伺う。	防災危機管理統括監
		(8)　23箇所は全て一時避難所であるため、沿岸部からより近隣での施設を想定していることと思うが、うち10施設は公共施設であり中長期の避難生活が可能となっている。しかし、10施設全て海岸からの距離が1km圏内であり、近いところは240mである。これでは不安が募るだけだと思うが、二次避難場所として、より海抜の高い場所及び海岸からの距離が遠い場所の選定はしてあるのか、もし、してあるのであればその詳細について伺う。	防災危機管理統括監

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
7	野村康幸 (一括方式)	２　緊急避難場所について (9)　市長は、東日本大震災での緊急対応、災害教訓の取りまとめや復興支援に携わられ、雇用対策、ボランティア、NPO、男女共同参画等の課題に5年間取り組まれた経験から「自分の経験を黒部で活かしたい」と強く思われ、現職にご就任されている。そこで、世界を震撼させた東日本大震災級の災害が本市で起きても、市民が安心安全に生活出来るよう、予防策として防潮堤の増築、発生時対応策として各種災害に対応出来る避難場所の建設等、市長の経験を活かした防災対策に係るハード面の整備について所見を伺う。	市長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
8	家敷誠貴 (一問一答方式)	**1　黒部市における防災について**	
		(1)　今年度の防災訓練の予定(内容)、次年度以降の予定(内容)について伺う。	防災危機管理統括監
		(2)　ペットを同行しての防災訓練を再開してはどうか伺う。	防災危機管理統括監
		(3)　黒部市のハザードマップの地図が古いように思う、地図を更新するべきだと考えるが伺う。	防災危機管理統括監
		(4)　市内の保育所、幼稚園、小中学校、公共施設にヘルメットを配置してはどうか伺う。	防災危機管理統括監
		(5)　各地区で防災訓練を行えるようにサポートするべきだと思うが、各地区での防災訓練実施状況、本市の取り組みについて伺う。	防災危機管理統括監
		(6)　各地区の災害備品はどのように管理されているか、どのように把握しているか伺う。	防災危機管理統括監
		(7)　防災士を増やす取り組みをしているが、資格取得後のサポートとして、各地区の防災士が集まり研修会を行ってはどうか伺う。	防災危機管理統括監
		2　放課後児童クラブについて	
		(1)　今年度の利用状況、待機児童は発生していないか、今後の利用者数の予測について伺う。	市民福祉部長
		(2)　各クラブの運営について、市がもっと関わるべきだと考えるが、各クラブの運営状況等の把握はできているのか伺う。	市民福祉部長
		(3)　地域でクラブを運営することは、地域の人たちとのつながりが出来るため、子どもたちが地域に愛着を持つきっかけになり、理想的な運営方法だと考えられるが、お金の管理や事務作業が運営の負担になっていると聞いている。希望のあるクラブに常勤の職員を配置してはどうか伺う。	市民福祉部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
8	家敷誠貴 (一問一答方式)	２　放課後児童クラブについて	
		(4)　地区ごとに課題があると聞いているが、振興会単位での運営が難しくなっているクラブを市で運営、もしくは民間に委託してはどうか伺う。	市民福祉部長
		(5)　施設が手狭になっているクラブに対して、学校の敷地内に専用の施設を建設するべきだと考えるがどうか伺う。	市民福祉部長
		(6)　希望する地区に対して、市営や民営など、モデル地区を作って経過をみてはどうか伺う。	市民福祉部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		1　「移住・定住」について	
9	橋　詰　真知子 (一問一答方式)	(1)　これまで、市では、「企画情報課」や「地域おこし協力隊」が相談窓口となっていたものと認識しておりますが、新たに「地域協働課」と「移住・人つなぎ支援センター」ができることで、このあたりがどのように変化していくのか伺います。	総務管理部長
		(2)　これまでの移住の取り組みというと、移住先が決まっていない段階の人たちへホームページや冊子などでの情報提供や「移住フェア」などのイベントを通じて黒部を知ってもらう、移住先の候補地として考えてもらうという方法がメインであるように感じられましたが、この方向性は今後も続くのか伺います。	総務管理部長
		(3)　一度も黒部を訪れたことのない人に、黒部の魅力をPRして、足を運んでほしいと促し、関係人口・交流人口の拡大そしていずれは移住してくれることを期待するよりも、観光などで訪れた人にPRしたり、仕事をきっかけに黒部へ転入し暮らしている人たちが今後も黒部に住み続ける選択をするように働きかけるほうが効果が期待できるのではないでしょうか。この提案について所見を伺います。	総務管理部長
		(4)　平成29年に設置された「くろべで住もう移住定住サポート協議会」の位置づけや役割について、そして今後について見解を伺います。	総務管理部長
		(5)　地域おこし協力隊について、今後どのような構想をお持ちなのか伺います。	市　長
		(6)　昨年度開催されたワーケーションモニターツアーについて、結果をどう感じているのか、目的、手段、効果なども含めて今後の方向性を伺います。	市　長
		(7)　昨年度開催された実践型インターンシップについて、結果をどう感じているのか、今後について伺います。	市　長
		(8)　「移住・人つなぎ支援センター」には、今すでに黒部に住んでいるけれど、つながりを求めている人の相談窓口としても検討いただきたいと思います。この提案について所見を伺います。	市　長

質問順	質　問　議　員 (質　問　方　式)	質　問　事　項	答　弁　者
9	橋　詰　真知子 (一問一答方式)	２　「黒部踊り」について (1)　子どもたちへの普及について、現状と今後の構想を伺います。 (2)　黒部には多彩な伝統芸能が受け継がれている地区がいくつもあります。 地域を愛する方々が代々大切に守り受け継いできたからこそ今日も続いているものと感じ、県外出身の私にはとても尊いことに感じられます。これらの伝統芸能との兼ね合いについてどのように考えているのか伺います。	教育部長 教育部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
10	辻　泰久 (一問一答方式)	1　幹線道路網の整備について	
		(1)　一般国道8号入善･黒部バイパスの本年度の進捗を伺う。	都市創造部長
		(2)　一般国道8号入善･黒部バイパスの市内部分の4車線化供用開始予定はいつごろか伺う。	都市創造部長
		(3)　背骨道路の市道新堂中新線の4車線化の供用開始はいつごろか伺う。	都市創造部長
		(4)　今後、新幹線駅に向かって切れ目なく4車線化できるよう県は残る区間の基礎調査を行っているようであるが道路の形が出来ていると思うが何が問題なのか伺う。	都市創造部長
		(5)　市は背骨道路の延伸に向け幹線道路網の計画見直しに着手したとあるが何をどのように見直すのか伺う。	都市創造部長
		(6)　都市計画道路前沢大布施線の工事の進捗を伺います。	都市創造部長
		(7)　いつ完成し、供用開始はいつごろか伺います。	都市創造部長
		(8)　湾岸道路の現況を伺います。	都市創造部長
		(9)　いつ頃供用開始になる見込みか伺います。	都市創造部長

質問順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
10	辻　泰久 (一問一答方式)	２　おむつのサブスクリプションの導入について (1)　子育て支援の一環としておむつのサブスクリプションを導入する考えはないか伺う。	市民福祉部長
		３　観光振興計画について (1)　現在の観光振興計画は2016年度策定で宇奈月温泉開湯100周年や関電黒部ルート一般開放などが反映されていません。あらたな計画の進捗を伺う。	産業振興部長
		(2)　2023年度から向こう10年間の長期計画であると伺っているが変化する観光産業である。現状と課題を伺う。	産業振興部長
		４　盛り土規制法について (1)　盛り土規制法が令和5年5月26日に施行されました。本市の対応を伺う。	都市創造部長

○一括方式とは
　議員が質問項目すべてについて一括して質問し、市長や各部局長が一括して答弁する方式

○一問一答方式とは
　議員が質問項目一問ごと（小項目）に質問し、市長や各部局長がその都度答弁する方式